

みどりを活用した都市の 防災・減災の推進に関する研究

防災・メンテナンス基盤研究センター 緑化生態研究室

室長 栗原 正夫 研究官 荒金 恵太



(キーワード) 東日本大震災、防災公園、津波からの緊急避難、帰宅困難者の支援

1. はじめに

国土交通省は、阪神・淡路大震災後の1999年に公表した「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)」をもとに、地震に起因する市街地火災の発生時に避難地や防災活動拠点等となる防災公園の整備を推進してきた。

一方、近年の東日本大震災等では、公園の新たな役割と、防災・減災機能を発揮するための課題が確認され、教訓を今後の公園計画・設計に活かす必要がある。そこで本研究では、近年の大規模災害時における公園緑地の防災・減災効果発現事例について、文献調査等による資料の収集・分析を行うとともに、国土交通省都市局とともに「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)」の改訂を行った。

2. 文献収集・整理

東日本大震災などを対象に、既往研究や地方公共団体等の公表資料を収集し、地震災害時における活用事例や課題などのうち公園緑地に関連する情報を整理した。資料収集方法としては、通常の文献検索のほか、地域防災計画データベース(総務省消防庁)、ひなぎくNDL東日本大震災アーカイブ(国立国会図書館)などのデータベースを活用した。

3. ガイドラインの改訂

2で文献収集・整理した内容を踏まえ、ガイドラインの改訂を行った。改訂のポイントとしては、津波からの緊急支援避難場所や帰宅困難者の支援といった、防災公園の新たな役割を位置づけたことがあげられる(写真-1、写真-2)。

津波からの緊急避難場所については、高さアクセシビリティを重視する公園配置の考え方を示すとともに、防災機能を有する公園施設の一つとして、「津波か

らの緊急避難場所となる築山」を位置づけ、迅速かつ安全な避難を確保するための設計上の留意事項を示した(写真-3)。

また、帰宅困難者の支援については、防災公園の種別のひとつとして、「帰宅支援場所」を位置づけ、配置や施設内容に関する考え方を示した。



写真-1 津波からの緊急避難場所となった高台の例(石巻市 日和山公園)
出典: 国土地理院HP



写真-2 東日本大震災発災後に公園内の建築スペースで帰宅困難者を受入れた例(千代田区 日比谷公園)
出典: 水と緑の市民カレッジ



写真-3 津波避難のために整備された築山の例(神栖市 中央公園)

4. おわりに

本ガイドラインは、国総研HPで閲覧可能である(<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0857.htm>)。今後、地方自治体の公園部局、まちづくり部局の担当者や、建設コンサルタントの実務者等に活用いただき、防災公園の効果的な整備が一層推進されることを期待したい。